

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 加藤 真治  
幹事 兵藤 文男  
会報委員長 山下 雅則

2015 ~ 2016年度 国際ロータリー K.R. ラビンドラン 会長テーマ

Be a gift to the world 世界へのプレゼントになろう

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2906回例会プログラム

[当年度=16回目; 当月=3週目]

2015年(平成27年)11月16日(月)

## 1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱  
……それこそロータリー  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(11/23) ……休会(法定休日)  
(11/30) ……  
地区出向者アワー 神谷 強 会員  
新入会員アワー 山本 善明 会員

## 2. クラブフォーラム……………〈ロータリー財団委員会〉

- 13:00 卓話 「ロータリー財団の今と戦略計画」  
講師 地区ロータリー財団委員会  
委員長 鈴木 文勝 様 (小牧 RC)  
(紹介者 中林 久美 会員)
13. 謝辞  
14. 点鐘……〈会長〉  
15. 閉会宣言
- 13:30 16. 散会

## ビ ジ タ ー

早川 <sup>もとひろ</sup>元啓 様 (岡崎 RC)

## 出 席

会員総数 96名 出席免除 23名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 88名  
欠席 17名 出席率 80.68%  
前々回(11/2)の修正出席率 100%

## 幹 事 報 告

- 1) ロータリー財団奨学生として'72~'74に西バージニア大学に派遣された、加藤五郎さんのご子息アレクサンダーさんが1月7日(木)にアイリス小ホールにて、ピアノコンサートを開かれますので、テーブルの上のパンフレットをご参照下さい。
- 2) 例会終了後、理事会・IM実行委員会が開かれます。ご関係の会員の出席をよろしくお願いします。
- 3) 23日月曜日は、ガバナー補佐杯が開催されます。ご参加の40名の会員方々は、よろしくお願いします。

## 委 員 会 報 告

## ●環境保全小委員会

- 1) 先週の移動例会「ロータリーデー」にさいしては多くの方にご協力を頂き、誠にありがとうございます。環境パネルの資料ありがとうございました。千円札が90枚もありました。2回も3回も千円札を入れて頂いたメンバーの方、重ねてお礼申し上げます。なお、今週キャビネットへお礼のミニティアを1個ずつお入れする予定でしたが、残念ながら仕入れた600個が、当日の1時50分にすべて配りおえてしまい残っていません。ご了承下さい。又、広報につきましては中部経済新聞社・碧海キャッチ・刈谷ホームニュースが取材に来てくれました。働きかけて頂いたメンバーの方にお礼申し上げます。

## ● IM 実行委員会

1) IM の PR をさせていただきます。2016年2月20日(土) 会場は、リリオコンサートホール並びにホテルクラウンパレス知立で行ないます。皆様のご協力をお願い致します。

## ● 青少年奉仕委員会

1) 青少年育成事業の一環として刈谷ロータリークラブが愛知教育大学に下記の内容で寄附しました。東日本大震災教育復興支援ボランティア派遣事業の学生さんの宮城県仙台までの交通費345,150円、8月、9月にて計10名の学生が派遣されました。

2) 小学5年生のサッカー大会、刈谷ロータリー杯が10月10日、10月17日の2日間行なわれました。10日の開会式には石川副会長、17日の閉会式には加藤会長に出席して頂き、ごあいさつと、杯の贈呈をして頂きました。

## ● ロータリー財団委員会

1) 本日、財団への寄附は10万4千円でした。今後も継続していきますのでよろしくお願い致します。

## 会長 あいさつ

### ニコニコボックスの始まり

加藤 真治



ニコニコボックスは、世界中のどの国にもあるというものではありません。日本でニコニコボックスの慣例ができたのは、1923年に起きた関東大震災の被災孤児達を東京ロータリーホームという孤児院で世話をしていたのですが、12年後の1935年、東京ロータリー・クラブの人達が当時オープンした多摩川園という遊園地に孤児たちを連れて行こうということになりました。

ロータリー・クラブは、クラブの必要経費を会員の頭数で割って会員が均等に負担するものであり、余分なお金はありません。つまり、会員個人はお金持ちではありませんが、クラブ自体にはお金がありません。

そこで、日本橋の羅紗問屋上村伝助商店の筆頭番頭であった関幸重という人が一計を案じまして、あり合わせのボール紙の箱を持って、「明日はあなたの誕生日ですよ」とか「昨日お嬢さんが結婚されたでしょう」とか言って、色々なことを軽妙洒落に面白く話しながら例会場を周りました。そこで会員達が皆笑いながら財布の紐を解いて幾ばくかのお金を寄附しました。これが日本におけるニコニコボックスの始まりでした。

当時、大学卒の初任給が60円くらいの時代に600円のお金が集まったそうです。このお金で無事、被災孤児達を多摩川園に連れて行くことができました。

それから以後、関さんが何かことあるごとにその箱を持って回ったのですが、皆がニコニコしてお金を出してくれるのに、ボール紙の汚い箱では具合が悪かろうとい

うことで、三越に注文して「えびす様」の顔を彫った箱を誂えました。これがニコニコ箱の起こりです。

後日談であります。このニコニコ箱は、戦時中、軍閥の弾圧によって日本のロータリーが解散を余儀なくされた時、後難を恐れて他の書類と共に廃棄されたといわれていたのですが、今から25年ほど前に東京ロータリークラブに無事保存されていることがわかったそうです。

## クラブフォーラム

### 卓話 「ロータリー財団の今と戦略計画」

地区ロータリー財団委員会

委員長 鈴木 文勝 様



11月は財団月間です。本日の卓話のテーマは、「ロータリー財団の今と戦略計画」とさせていただきます。少し固いテーマ名ですが、各クラブ様から卓話についてご要望のアンケートを取らせて頂きましたので、要望事項を踏まえてお話しをさせて頂きたいと思っております。財団委員会の組織が分からないと言うお声もありました。ロータリー財団委員会の下には、6つの小委員会があります。資金管理委員会は補助金の適正利用の管理を行います。資金推進委員会は、基金の寄付を促進する役割を担います。補助金委員会は、補助金活用の推進を担い、職業研修チーム委員会は、グローバル補助金に基づく重点6分野の範囲でVTTプロジェクト活動を行います。ポリオ・プラス委員会は、ポリオの撲滅にむけてPRや寄付の促進を担います。

寄付の種類が多くてよくわからないとの意見もありましたが、寄付の種類は3つだと認識ください。「年次基金」や「恒久基金」、そしてポリオや平和フェローシップへの寄付は「使途指定寄付」と言います。これらは寄付先が指定された寄付の種類を言いますが、「ポール・ハリス・フェロー」や「メジャードナー」などは寄付者への寄付への感謝を“認証”という形であらわします。これらの認証は、個人に与えられるものであって、寄付した法人(会社)やクラブに与えられるものではありません。一方、クラブに与えられる認証があります。「100%財団の友クラブ」は、クラブ全員が年次寄付を1,000米ドル以上寄付したクラブが認証されます。「100%ポールハリス・フェロー・クラブ」は、クラブ全員がポール・ハリス・フェローになっているクラブが認証され、「EREYクラブ」は、クラブ寄付が1人当たり100ドル以上で、会員全員が年次寄付をしたクラブが認証されます。皆さまのご協力のおかげで、当地区は寄付ゼロクラブを更新しています。日本では17地区63クラブが寄付ゼロクラブを達成出来ていませんでした。皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。世界では、日本が寄付総額は2番目でしたが、韓国が肉薄して来ています。日本に期待される世界への貢献に対する期待度はますます高まって来ています。

3年前に皆様からご寄付頂いた年次基金と恒久基金の利息は、地区活動資金（DDF）として地区に戻ってきます。地区活動資金（DDF）は、地区補助金とグローバル補助金として、社会奉仕、人道奉仕、VTT、奨学資金に利用することが出来ます。

地区補助金は、地区内外、海外でも利用することが出来ますが、比較的少額なプロジェクトに利用されます。地区補助金は、地区の裁量でプロジェクトを進めることが出来て利用しやすくなっています。地区補助金は、複数のプロジェクトに利用できますが、一括で申請しなければなりません。地区補助金の申請期限が短すぎるとのご意見を伺いますが、短期でプロジェクトを決めるのではなく、2年前3年前から複数のプロジェクト候補を掲げ、準備を進めて頂くようなスパンを考えて頂きより充実したプロジェクトを推進したいと存じます。

グローバル補助金は、重点6分野の範囲の中で利用し、3万ドル以上のプロジェクトに使用することが出来るとともに、海外の地区またはクラブとの共同プロジェクトに利用することに制限されていますので、一層、複数年度前からの企画準備を進めて頂くことが肝要です。

実施に向けて困難な課題はあるかも知れませんが、果敢に挑戦して頂きたいと思います。

補助金を利用する場合の要件の詳細は、最新の「授与受諾の条件」を確認しなければなりません、大きな資格要件として、2つの要件をあげます。1つは、8月に開催されるR財団セミナーと2月に開催する補助金管理セミナーに出席して頂きたいと思います。

2つ目に、地区とクラブ間で、MOUを締結して頂きます。

グローバル補助金を利用する際、最新の「授与受諾の条件」を確認するとともに、信頼できる共同提唱者かどうかをチェックしてください。問題のあるプロジェクトが先方提唱者の責任だったとしても、同様の責任が問われます。

地区補助金の利用できる範囲は広いですが、周年の式典などには利用できません。ただし、周年のタイミングで奉仕プロジェクトを行うことは問題ありません。昨年度より青少年育成事業にも利用可能になりました。毎年連続して同じ事業の実施は推奨されておりません。その趣旨は、年とともに社会のニーズは変化するので、恒例事業に補助金枠が取られてしまうことを避けるためです。最近地区補助金の事業の認可ハードルが低いこともあって、補助金の使われ方に問題があるケースが見受けられます。ご注意をお願い致します。

当地区は未来の夢計画3年間のパイロット期間を経て現在がありますので、他の地区より先進的に取り組まれています。ただ、2013-2014年度から2014-2015年度までの2年間を切り取って、他の地区と取組み状況を比較してみますと、グローバル補助金に関しては取組み数が多いとは言えません。是非、クラブ様には、グローバル補助金を利用したプロジェクトに挑戦して頂きたいと思います。

2014年に、絶対にポリオフリーは不可能だと言われていたインドがポリオ撲滅宣言を致しました。2015年9月

25日付けで、WHO（世界保健機構）は、ナイジェリアを野生株ポリオ常在国リストから解除致しました。残るは、パキスタンとアフガニスタンの2国になりました。この2国も昨年と比べると大幅に減少しています。世界からポリオが撲滅されるのは目前です。しかし、最後まで気を抜くことは出来ません。

RIとロータリー財団の関係はどのようになっているかの質問がありました。

国際ロータリーとロータリー財団はあたかも同格の別組織のように認識されがちですが、「国際ロータリーの中のロータリー財団の位置づけである」ことをご認識ください。

ロータリー財団はRIの方針・戦略を受けて、具体的活動を推進する役割を持っています。

「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」というロータリー戦略計画を支えるために、2015年7月1日か始まる3年間のロータリー財団の優先事項が提案されました。優先項目1. 永久にポリオを撲滅する。優先項目2. R財団に対するロータリアンの知識、参加、寄付の向上を図る。優先項目3. 補助金を通じて、人道的奉仕の質と量を向上する。優先項目4. R財団100周年（2016-17年度）に向けてイメージと認知度を高める。

これらの目標は、今後の進捗状況によって変更がされる場合があります。

今後とも、ロータリー財団にご理解ご協力をよろしくお願い致します

ご清聴ありがとうございました。

## 健康診断



## 第6回理事会

- I 会長挨拶 <会長>
- II 議題
  - 1. 12・1月のプログラム（案）について <クラブ奉仕委員長>  
<プログラム委員長>
  - 2. 新年例会並びに合同懇親会について <クラブ奉仕委員長>  
<親睦活動委員長>

3. 職場例会について                   〈職業奉仕委員長〉
4. 第16回そろばんフェスティバル後援について  
  〈職業奉仕委員長〉
5. 刈谷第九演奏会后援名義使用について  
  〈社会奉仕委員長〉
6. 国際大会ソウルについて       〈国際奉仕委員長〉
7. RYLA セミナー参加について  
  〈青少年奉仕委員長〉
8. 西三河願いごとカウントダウンイベント後援依頼  
   について                           〈幹 事〉
9. その他